

伊豆近海におけるムツ属 2 種の成育特性

I. 若魚の種組成および食地位

高井則之・糸井史朗・山田明・(日大生物資源)・秋元清治
(神奈川水技セ)・池田謙(琉球大理)・桑江朝比呂
(港湾空港技研)・杉田治男・吉原喜好(日大生物資源)

【目的】ムツ *Scombrops boops* とクロムツ *Scombrops gilberti* は形態的に酷似している近縁種であり、共に日本列島太平洋側沿岸域を主な生息海域としている。両種とも若魚期に岩礁海岸周辺などの極めて浅い水深帯で群生し、成長に伴って水深 200～700m の中深層帯に生息場所を移していくものと考えられているが、成育海域の種間差や成長に伴う生活様式の変化については不明な点が多い。本研究では、伊豆半島沿岸で漁獲されたムツ属 2 種の外部形態を観察し、本海域で成育する若魚の種組成を調べた。また、炭素・窒素安定同位体比 (SI 比) 分析を導入し、食物網における若魚の食地位について考察した。

【方法】2006 年 4～11 月に伊豆半島沿岸で漁獲されたムツ属の若魚 127 尾および成魚 10 尾を収集し、側線有孔鱗数 (LLp) および第一鰓弓の鰓耙数 (GR) を計数した。また、25 尾から筋肉を採取し、元素分析計 Flash EA1112 接続の質量分析計 Delta Plus Advantage (Thermo Finnigan) を用いて筋肉の SI 比を測定した。

【結果】伊豆近海で漁獲された成魚の形質は、体色の黒味が薄い 4 尾では LLp が 51～56, GR 上枝が 2～3, 下枝が 11～13 であり、黒味が強い 6 尾では LLp が 60～62, GR 上枝が 2～3, 下枝が 9～13 であった。GR 上枝以外は、それぞれムツとクロムツの特性値に該当していた。一方、伊豆半島沿岸の 7 箇所で漁獲された若魚 124 尾の形質は、LLp が 47～56, GR 上枝が 2～5, 下枝が 11～16 の範囲にあり、いずれの個体もムツの特性値に該当していた。伊豆半島沿岸で成育している魚種は、ほぼムツのみであることが示唆された。また、SI 比分析の結果により、伊豆半島沿岸のムツ属若魚は植物プランクトン系列の食物連鎖に属しており、成長に伴って栄養段階が著しく上昇することが示唆された。